All Aoyama Charity Concert

2011年9月23日、青山学院講堂にて開催された、東日本大震災を覚えるチャリティー

シリーズ・私の教会 file 60

Warabi Evangelical Free Church

日本福音自由教会協議会 蕨福音自由教会

大学学生支援ユニット学生生活グループ 中等部事務室

隣にさいたま市や川口市といった大き な市がありますが、日本一小さな市と して人口が過密している地域です。

私たちの教会は1952年6月、米国

福音自由教会宣教師のヘッセルグレ ーブ師を中心とした伝道集会(天幕 伝道)をきっかけにスタートしました。こ の集会は10日間行われ、その最終日、 次から集る場所も見つからぬまま集 会が終わろうとするところ、一人の婦 人が手を上げて「私の家で間に合う ものでしたらお使い下さい」と申し出 てくださったことにより蕨教会が誕生 しました。それから60年近くが経とうと していますが、その間に7人の牧師先 生が奉仕してくださり、現在では130 名程の方々が教会に集っています。

日曜日の朝は、礼拝に先立って子ど もたちの教会学校が行われます。冒頭 にご紹介したご婦人は、自分の家を教 会のために用いられた後、今度は幼 稚園の働きを始められ、キリスト教信仰 に基づく教育がなされてそこからたく さんの子どもたちが教会学校へとつな がっています。幼稚園児から小学生、 中・高生まであわせると70名程の子ど もたちが集り、各年代にあわせた活動 が行われています。そのおかげもあり、 教会には子どもから年配者まで幅広 い世代が集り、神の家族として交わり

から、そのスピリットを受け継いでいこ うと、毎月1回、全員で教会案内の配 布を行っています。礼拝後に皆で楽し く会話をしながら昼食を食べた後、教 会案内を持って街へ出て行き家のポ ますが、チラシを見て初めて教会に来 てくれた方が与えられるたびに、配ら れたトラクトを神様が用いてくださって

現在蕨教会には牧師がいません。 というのも、数年前に近隣の福音自由 教会と合同で開拓伝道を行い、新た に教会を建ち上げた結果、私たちの 教会の牧師がそちらの働きに導かれ ました。牧師不在の2年間は、教会員 にとっても不安な日々で、まさに信仰が 試される試練の時ではありましたが、 教会員の一致と尊い奉仕の業により

教会運営も守られ、毎週日曜日の礼 ありたいと願っています。



CHRISTIAN BOOKS & CDs

シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

ホームページ: http://www.warabi-efc.jp.

ガブリエル・アクセル (監督・脚本) 『バベットの晩餐会』

監督・脚本 ガブリエル・アクセル、製作 ボー・クリステンセン、音楽 ペア・ノアゴー、出演 ステファーヌ・オードラン他 1987年デンマーク映画 同年度アカデミー外国語映画賞受賞

浅原 一泰 高等部聖書科講師

「バベットの晩餐会」という映画 をご紹介したい。確か80年代後半 に作られたデンマーク作品で、アカ デミー賞外国語映画部門賞をとっ たと記憶する。ストーリーは極めて 地味なものであり、演じているのも 無名の役者ばかりであるが、その ような映画でありながらも何時まで も消えることのない記憶を焼きつけ るものがある。

時代はパリ・コミューンの嵐が吹 き荒れる頃。主人公のバベットとい う女性がパリから逃れ、ユトランド 半島のある漁村に辿り着き、そこ で教会を守っていた姉妹の下に 身を寄せる。この姉妹はその教会 の牧師の娘で、父親亡き後二人で 信徒達の世話をしていた。以前牧 師が存命中の頃も、この漁村に身 を寄せる二人の男性がいた。一人 は遊びほうけて訓練をろくにしない 若い軍人で、その父親が知人で あった牧師に息子を預ける。彼は 姉妹の一人に恋をするが、質素で 敬虔な生活を貫く彼女や村人達 の姿に心打たれて回心し、村を去 る。もう一人は都会の雑踏に疲れ 果てたオペラ歌手であるが彼も姉 妹のもう一人に恋をし、彼女に歌を

教え始める。最初は師弟という関

係が保たれたが、男の野心に気

づいた彼女は歌のレッスンを断り 男は失意の内に村を去る。己の満 足を求めていては人に喜びを与え られない。この二人の男の辿る道

がそれを物語る。 三人目のバベットはパリの有名な レストランのシェフであった。しかし それを隠して姉妹の良い家政婦と して勤め上げていく。ある日くじで大 金が彼女に当たる。すると彼女は 村人を招いて晩餐会を開くことを 願い出るのだがここでもある問題 が生じる。食べたこともない鶉や海 がめなどが調理されるのを見て姉 妹や村人達が震え慄き、晩餐会で は料理の話題は一切しないように と示し合わせたのである。バベット の思いも無に帰するかというとそう はならなかった。その理由はあの軍 人が立派な将校となって漁村を訪 れ晩餐会に出席し、自分が味わっ

たことのあるパリ一番の料理と知 って舌鼓を打ったことにある。美味 しくても何も言わない村人らの前で 将校がこんなスピーチをする。「目 先しか見えぬ人間は、人生の選択 をせねばと思い込み、その危険に 震え慄く。しかし選択に意味はな い。神の慈悲は無限だからだ。信 頼して慈悲を待ち、感謝して受け れば良い」。野心からではなくただ 神の栄光の為に己の力を捧げる。 バベットの篤い信仰に気づいた姉 妹は彼女に感謝し、最後は村人も 手をつないで神を賛美して映画は

映画『バベットの晩餐会』原作

イサク・ディーネセン作

桝田啓介訳 ちくま文庫

神の栄光の為に自分の力を捧 げる。それがどんなに小さなもので あっても。野心を実現した人間ば かりが勝利者とみなされる風潮の 中で、私自身の人生観を変えてく れる映画であった。

被災地のために、何ができるか

被災地のための祈祷会

震災直後から、宗教主任たちは、 メールで意見交換をしつつ、今、こ こで私たちのなすべき課題はなにか と自らに問いかけました。期せずして 「学院全体で、まず祈りをささげよ う」ということで意見が一致し、「東 日本大震災の被災地を覚えての祈 祷会」を、震災が生起した毎週金 曜日の昼休みに持つことになった

震災から一週間後の3月18日に 持たれた最初の祈祷会には、準備 不足にもかかわらず、保護者・校友 も含め、本部礼拝堂が満杯となる 150名もの方々が集われました。皆 が祈らずにはいられない思いに満た されていたからです。

その後、青山キャンパスでは、7月 8日までの17回、相模原キャンパス でも3月25日から7月8日(4月1日、 8日は休会)までの14回の祈祷会 が持たれました。それぞれのキャン パスの平均出席者は、青山キャン

パスが32名、相模原キャンパスが 28名でした。

当初は、促されるままに有志が、自 由に祈りを捧げる形式がとられまし た。勢いキリスト教の祈りに習熟して いる宗教主任やキリスト者の教職員 のみが、祈りを捧げることとなってし

4月の大学宗教主任会では、祈 祷会に参加した一人一人の方々の 言葉にならない言葉を集約し、皆 が、祈りを捧げることができたと思え るような祈祷会にしなければならない との反省がなされ、司式者と会衆が 交互に祈りを捧げる共同の祈りとし ての「連祷」を作成することが決めら れました。

谷口裕子先生と塩谷直也先生 が、喜んで原案作成の労を引き受け てくださり、幼稚園から大学院に至る までの宗教主任、宣教師、主事の意 見も加えて、連祷が生み出されまし た。しかも、時々刻々と被災者の

嶋田 順好 学院宗教部長

107TH EDITION NOVEMBER 21, 2011

方々の苦しみや課題は変遷していき ますから、折々の課題や促しが、時 宜にかなった形で祈れるようにと4 月、5月、6月と、一月毎に異なるバー ジョンが生み出されたのです。

皆が、思いと心を一つにしつつ共 同の祈りが祈れることは、本当に幸 いなことでした。この連祷が生み出さ れたことによって、祈祷会は、名実共 に、青山学院の祈祷会としての実 質を持つようになったとの思いを強く します。そればかりではありません。池 の水面に投じられた石が、いつしか 同心円の波紋を生み出すように、こ の連祷の存在が、様々なところに祈 りの輪を広げ、キリスト教学校教育 同盟の諸集会やキリスト教学校の 礼拝のなかで用いられるようにも

青山学院が、祈りに促され、励まさ れつつ、これからも被災者の方々の 思いを共有し、歩み続ける共同体で ありたいと願わずにはいられません。

大学ボランティア・ステーションのプロジェクト 伊藤 悟 大学宗教部長

ちの被災地ボランティアへの意識は 高まっていました。被災地では人手 が必要な状況がたくさんありました が、余震の続いているなか、まだまだ 行方不明者の捜索も行われており、 ボランティアの受け入れ先や生活 拠点の確保も困難でした。またよい 働きをするために事前オリエンテー ションや講習会をしっかり実施したい ということもあり、大学では夏休みに 集中的にボランティアを派遣するこ とにして準備を始めました。

5月にボランティア・ステーション(以 下、VS)が設置され、約40名の学生 スタッフが運営に携わり、900名近い 学生がこれに登録しました。登録した

3月11日の震災直後から、学生た 学生には、大学の企画した夏のボラ ンティア情報が配信され、そのなかか ら希望する期間、希望する場所のボ ランティア活動に応募するというかた ちを取りました。

> ボランティア活動はあくまでもボラ ンタリーな精神によって行われるもの ですから、学生たちは、時間的にも経 済的にも自己負担を負いながら自主 的に参加し、じつに450名ほどがその ようにして、この夏、被災地(多賀城 市、石巻市、気仙沼市、大船渡市)に 派遣されていきました。7月11日にはガ ウチャー記念礼拝堂にて「ボランティ

ア派遣式」が厳粛に行われました。 活動に参加した学生たちの顔は 輝いていました。初めは不安そうにし ていた学生も、活動が進むにつれて 顔つきが変わっていきます。多くは一 週間ごとの交代制で活動が展開さ れましたが、一度東京に帰ってから、 再度、現地に戻った学生もいます。 真剣な眼差しで被災した方々の話 を傾聴する姿、炎天下であろうと土 砂降りの雨の中であろうと黙々と働 くバイタリティ、被災者のちょっとした 笑顔を喜ぶ優しさ、互いの労をねぎ らい合いながら明日に向けてよりよ いアイディアを出していく心意気は、 じつに青山学院が創立以来、大切 にしてきたことです。

この夏、東北の各地で、スクール・ モットー「地の塩、世の光」が結実した

吉岡 康子 女子短期大学宗教主任

この時期だからこそできること

「この時期だからこそ『わたしたち ての洗浄作業などを行いました。 ができること』に真剣に取り組み、 『地の塩、世の光』として生きること の意味を考えましょう。」――この呼 びかけに80名近い学生が応募を し、その中から抽選で選ばれた14名 の学生、引率教職員5名が、7月19 日(火)から25日(月)まで岩手でボラ

ンティア活動を行いました。 前半はボランティア活動ならびに 青少年育成指導のエキスパートであ るYMCAが運営する、日本基督教団 宮古教会ボランティアセンターにお いて活動をし、津波被害を受けられた お宅の壁をはがしたり床下等にもぐっ

後半は、学生達が企画した「サ マーフェスティバル」を釜石市のボ ランティアセンターである日本基督 教団新生釜石教会で行いました。 仮設住宅をお訪ねして広報活動を 行い、バーベキューや、綿菓子、カキ 氷、子どもたちとのお楽しみコーナー などを準備し、当日は200名近い地 域の方々が集まってくださり楽しく、 和やかなひと時を持つ事ができまし た。終盤は今回の活動を様々な面

でサポートしてくださった日本基督教

団花巻教会において、応援のため

駆けつけてくださった同窓会の役員

の方々ともご一緒に聖日礼拝を守 り、また活動の総括をなすことができ

痛みのある地に出かけ、そこで痛 み苦しみの中にある方々の痛みに ふれ、自らの心も痛み、そして今、自 分ができる最も良いことは何だろうと 祈り、考え、行動する事をとおして、 短大生たちの笑顔が、汗が、時には 涙が、小さな喜びと希望の光となっ たことを感謝します。そして、決して忘 れない、共にいたい、共に生きたいと いう強い思いをこれからも短期大学 みなで祈り、また、これからもできるこ とに取り組み続けます。

問われる私たちの歩み

高等部ではボランティア部が被 災直後に募金を呼び掛け、秋の文 化祭では支援のためのバザーと共 に、宮古高校から生徒会生徒たちを お招きして、二日間にわたる交流を 行いました。キリスト教学校同盟諸 高の「祈りの輪」から生まれたキリス ト教主義学校に通う被災者のため の募金にも加わっています。

高等部同窓会からは、宮古に自 転車とパソコンが、山田町に生活物 資が、日本基督教団奥羽教区には、 一次支援として200万円、食品、そし て足を運ぶごとに生まれるつながり の中で、大船渡の教会には冷蔵庫、 釜石の幼稚園には園児たちの三輪 車、遊具、簡易プール等が、気仙沼

や陸前高田には衣料や収納具が、 同窓生たちの心、祈りと共に運ばれ ました。4月2日の朝、宮古にて物資

を積んだトラックから荷物を降ろして いた時、私たちが青山学院から来た ことを知った一人の方から「うれしい、 うれしい」との声をかけられました。青 山の同窓生の家の方だったのです。

「私たち岩手県山田町に住む者 にとって、中心市街地がほぼ全滅と 言う悲惨な状況であります。・・・それ でもこの地を愛する私たちは、この海 から決して離れることなく、目をそらす ことなくこの地に住み続けたいと考え ています。買い物をしようにも店が一 軒もない状態で宮古市まで買い出し に出かけなければなりません。・・・青

相良昌彦高等部宗教主任

山学園高等部の皆様から多大なる 生活物資を盛岡市の教会を通じて 何度も届けていただきました。皆さん がどんな思いでこれらの物資を集め てくださったのか。・・・どうか東北の田 舎町に住む私たちが、誇りをもって 再起できますようにお力をお貸しいた だきたいと存じます。・・・・青山学院高 等部がとても身近に感じられます。」 運ばれた物資に対する山田町から の書状です。文中に「青山学園」と 書かれるほど接点の無かった私たち を「身近に感じる」と言ってくださる今 このとき、つながりが与えられた中で、 どのようにこれから共に生かされる か、「地の塩、世の光」としての私た ちの歩みが問われています。

PHOTO ALBUM

THE SALT OF THE EARTH, THE LIGHT OF THE WORLD / MATT.5.13-14

東日本大震災への各部の取り組み

地の塩、世の光



被災したことぶき商店街の道路復興事業を手伝いました。150mにわたる 路面ブロックをすべて掘り起こし洗浄しました。(宮城県石巻市) (大学)



アップ・ゼミ」を実施。本学学生ボランティア7名が英語・数学・理科の講師 として活躍しました。生徒からも先生方からも大好評でした。



夏休みを利用した学童保育は4週間にわたって行われました。これは小学 生たちと万華鏡を製作している様子です。(宮城県多賀城市) 〈大学〉



を伺うことができました。(岩手里大船渡市)



津波被災家屋の洗浄作業(岩手県宮古市)



釜石の子どもたちと夏祭り(岩手県釜石市)

編集後記

107号は、3月11日に発生した東日本大震災に関連する文章が多数を占める構成と なった。「最近の若者は」という一節は、いつの時代でも年配者が若年者に苦言を呈 するときの常套句であるが、今回の大震災ではボランティア活動のような、「最近の若 者」による活躍が随所に見受けられたように思う。もちろん青山学院の生徒・学生諸 君もその例外ではない。若者が他者の嘆きや悲しみに思いを致すことのできる社会の 未来は明るい、と信じたい。

Wesley Hall News 第107号 2011年11月21日発行

発行 青山学院宗教センター 学院宗教部長 嶋田 順好 東京都渋谷区渋谷4-4-25 TEL.03-3409-6537(ダイヤルイン) URL.http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html E-mail.agcac@jm.aoyama.ac.jp 編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会 印刷 株式会社 万全社

女子短期大学 宗教活動委員 秋富 創

蕨市は埼玉県の南東に位置し、近

と一致をもって毎週の礼拝を捧げてい ます。礼拝の賛美にはパイプオルガン が用いられ、礼拝の他にも毎年オルガ ンコンサートやクリスマスチャリティコン サートが行われ、近隣一般の方々にも その豊かな音色を響かせています。

教会が伝道によりスタートしたこと ストに配布します。地道な働きではあり

いることに改めて感謝しています。

拝には他教会の牧師先生がメッセー ジに来てくださり、過去に牧師として奉 仕してくださった先生が手助けしてく ださったおかげで礼拝を保つことが できました。そしてついに神様は私達 の祈りに応えてくださり、来年4月から 新たに牧師を迎え入れることが決まり ました。60年目の節目の年、新しい牧 師先生とともに新たなスタートを切る 蕨教会が、常に神様を見上げつつ主 の働きのために前進していく教会で

任

歴史のリセット

クリスマスで私がいつも思い出すエピソードがあります。第一次世界 大戦の最中にドイツの森で、ドイツ軍と当時の連合軍が塹壕で向き合っ て銃を構えているとき、ある若い兵隊が12月24日の夜なので故郷のクリ スマスを思い出して「サイレント・ナイト」を歌い出しました。それが聞こえ ると両軍の兵士が武器を捨て森の広場に集まり、その晩は打ち合いを やめて、一緒に讃美歌を歌ったのです。クリスマスは、平和の源であると いえます。しかも、マタイによる福音書の最初の言葉は、ギリシャ語で、 「ビブロス・ゲネシオース」「創造の書」つまり神が天地を造られたという 言葉と同じゲネシオースではじまり、イエス・キリストと共に世界がリセット され、再スタートが始まると語り始めています。

神の挑戦

しかし、イエス・キリストを迎えるにあたって、「偽の平和」に神が挑戦 されたことを考えたい。三人の博士が救い主の誕生を聞くと、王ヘロデ は「不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった」と記されてい ます。さらに、マタイ2:16以下には「ベツレヘムとその周辺一帯にいた二 歳以下の男の子を、一人残らず殺させた」とあります。

ヘロデは、主イエスを認めず王座から降りなかった。彼は、ユダヤの 南のイドマヤという国の出身で、ローマ帝国に据えられて王となった。し かし、大ローマ帝国は、彼をただの歯車のひとつとしてしか使っていま せん。大きな将棋盤を見ているのはローマ帝国だけで、吹けば飛ぶよう な将棋の駒は、存在価値を確認できないために、いつも不安で、かえっ て「殺意に満ちた老人」という仇名を付けられました。これは晩年になっ て王座を譲らなければならない予感がしたとき、次々と王座を継ぐ権利 のあるものを殺し始めたからです。その殺意は妻マリアムネに対してで あり、長男アンティパテルに対してであったといわれます。こういったこと からヘロデは、権力欲のゆえに最も愛から遠かった存在といえます。も し、彼のコンプレックスを癒す愛があったなら、それほど権力欲につき動 かされずにすんだと思われます。

私は、とても不思議に思います。ローマ帝国が領主ヘロデをすぐ取り 替えられるものと考えていたなら、ローマにとってイエス・キリストはさらに 物の数ではなかったでしょう。一人の犯罪人を十字架に付けたと地方 の知事から連絡を受けても、ローマ皇帝はすぐに忘れてしまうような些 細な塵のような事件でしょう。ところが、大ローマ帝国は滅んでしまい、イ エス・キリストは世界の救い主としていまだに喜びをもって迎えられ、 人々の愛と希望のよりどころとなっています。

不思議な政権交代

占星術の学者は、星の位置を確かめて暦を決定する仕事をする人 でした。アラビア地域の王のブレインと考えられます。彼らは、初めは力を もった貴族でしたが、権力欲に汚れた政治に背を向けて、そういった欲 望や人間の卑しさが出てくる世界に嫌気がさして、知的作業にはいっ た人といわれています。一説によると、メディアという国がペルシャに滅ぼ され、ペルシャ帝国の属州になったとき、一回クーデターを起こしてペル シャ人を追い出そうとして、結局弾圧されていました。このバイオレンスを 経験して彼らは、賢者となる決心をして、薬学を学んで医者となる人達 と、占星術を学んで暦を作る人達が生まれたといわれます。そう考えると 彼らは現実の厳しさのなかで、平和の救いを忍耐強く待ち望んでいた 人たちと考えられます。彼らは不透明な暴力の世界ではなく、非暴力的 な愛の真実を求めていたと言えるでしょう。このような占星術の学者た ちが幼子イエスのところに行くと「喜びにあふれた」とあります。これは、 もともとは「喜びによって喜びが満たされた」という強い表現です。

インマヌエル(連帯する非暴力的愛)

イエス・キリストがお生まれになった時に、「その名はインマヌエルと 呼ばれる」(マタイ1:23)と言われました。そこには「神は我々と共におら れる」という奇跡が意味されていました。私は経済倫理を研究している ので目にとめたのですが、新聞記事に、飽食日本で、販売期限が迫っ た食品、ラベルの印刷がずれただけで廃品になりそうな食品、輸送途 中でダンボールが壊れただけで廃品寸前の食品を大切に引き取り、ホ ームレスのひとびとの支援や児童施設の食事に生かしているチャール ズ・マクジルトン氏のことが載っていました。彼は、「サンタクロースでいる より、イエスのように彼らと同じ痛みを感じたかった」というのです。つま り、上から目線で贈り物をするのでなく、隅田川の橋のたもとで、一緒に ブルーシートのテントの中で冬に生活をして、夜「毛布いりますか?」と声 をかけられたときに、受け取る側の複雑な気持ちを経験したそうです。 だから、人々と共に生き、しかも愛に生き抜いて十字架にご自身を捧げ られ復活したイエス・キリストの愛を映し出して生きたいと思ったので

す。ここにインマヌエル 「神が我々と共にいます」 という愛が写し出されま す。私は、「フェアトレード (公平な貿易)」という運 動が植民地主義という歴 史を是正するものだと学



ばされ、そのあり方を実践する運動を学生たちと経験しています。 神がイエス・キリストにおいて、人々と共におられた連帯の愛、非暴力 の愛に現れたことに感謝して応答したいのです。

佐田 真有子 幼稚園教諭

> 「かみさま、イエスさまをくださっ てありがとうございます。イエスさ まはやさしいです。だからとっても うれしいです。」

これは、アドヴェントの時期の

ある男の子の祈りの言葉です。シンプルな言葉の中に、イエス様 への信頼と喜びが感じられます。子どもたちは、礼拝のお話や教 会生活、そしてクリスマスを迎える準備を通して、神様が下さった 最大のプレゼントであるイエス様のことを知り、少しずつ身近に感 じていきます。

神様が私たちにイエス様という特別なプレゼントを下さったよう に、子どもたちは大好きなお母様に心をこめてプレゼントを作って 贈ります。年中組では、お母様にクリスマスのオーナメントを作りまし た。そして、お母様も子どもたちに秘密で手作りの枕を作りました。

クリスマス礼拝当日に行うプレゼント交換は、親子にとって特別 に楽しみで嬉しい時間です。子どもたちの気持ちがいっぱい詰ま ったプレゼントのオーナメントを受け取ったお母様は、我が子の成 長と子どものまっすぐな気持ちを感じ、「うれしい。ありがとう。」と子 どもに伝えます。そして、子どもを思う気持ちが溢れる枕をお母様 から受け取った子どもたちは「みて!ぼくの枕!どうぶつのもようだ よ」「わたしのにはかざりがついてる!」と歓声をあげます。お母様 からのカードを見て喜んだり照れたり…親子それぞれにとても幸せ な表情です。そんな中、ある女の子が涙を流していました。保育者 が「どうしたの?」と声をかけると、「おかあさん だいすき。おかあさ んありがとう。」と、幸せな気持ちが溢れる涙でした。そして、女の 子は、最後に皆の前でお祈りをしてくれました。

「かみさま おかあさんたちが わたしたちのために まくらをつくっ てくださいました。だいすきなおかあさんをくださって ありがとうござ います。とってもうれしいです。みんなでクリスマスをおいわいでき たこと ありがとうございます。」

女の子の祈りにも感動を覚えたひととき、幸せと喜びと感謝で満 たされたクリスマスでした。

 \mathcal{O}

すず木たけき

「アドヴェントクランツに、あかりがつく と、かみの子イエスさまのおたん生が近 くなる」ではじまるこのさんびかが大す きです。クリスマスがまちどおしいなぁ とわくわくしてきます。ようちえんでならっ た、さんびかです。

ぼくはようちえんに入ったとき、「クリスマスはプレゼントがもらえるだ け」と思っていました。だけど、ようちえんのとき、クリスマスはイエスさ まのおたん生日であることがわかりました。なぜなら、まい週水曜日に ようちえんの二かいでれいはいをしていたからです。先生がかみさま やイエスさまのお話をたくさんして下さいました。ぼくは、今より小さな いすにすわって、いっしょうけんめい聞いていました。教会学校でもイ エスさまのお話をたくさんして下さいました。今は、しょとうぶと教会学 校でお話を聞いています。こころがおちついて、大すきなじ間です。

クリスマスが近くなると、いえでは、アドヴェントカレンダーなどのクリ スマスのかざりつけをして、イエスさまのおたん生をおいわいします。 そして、けん金ばこをよういして、かぞくみんなでけん金します。アドヴ ェントクランツをうたいながら、イエスさまをおむかえする、こころのじゅ んびをしています。

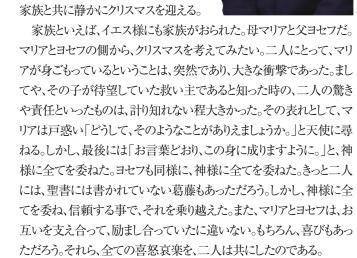
学校では点火さいをし、いよいよクリスマスが近くなると、クリスマス さんびれいはいでページェントをします。ようちえんのときのページェン トも大すきでしたが、しょとうぶではもっとながいじ間、大きなぶたいの 上で行われました。ろうそくのあかりの中でのページェントは、とてもふ しぎなかんじがしました。しょとうぶのページェントは、とてもりっぱでし た。さいごにぼくの大すきな『もろびとこぞりて』をうたいました。「しゅは きませり、しゅはきませり」とうたっていると、力がわいてきて、元気になり ます。みんなでうたうので、とても大きな力になるようにかんじました。

今年は、大しんさいがあり、つらい思い、かなしい思いをしている 人がたくさんいます。よの中のみんなが、しあわせになるように、いっし ょうけんめいおいのりします。クリスマスにも青山学いんのみんなでお いのりをしたら、きっと大きなパワーが生まれると思います。

イエスさま、ありがとうございます。かみさま、ありがとうございます。

谷 中等部3年

クリスマス、それは、イエス様がこの世 に来て下さった日であり、その事に感謝 し、祝う日である。そんなクリスマスをどう 迎えるかは、人によって違う。僕は毎年、



今まで書いた様に、マリアとヨセフから学ぶことは、とても多い。信仰 の先人としては、どんな時も神様を信頼し、全てを委ねること、そして家 族としては、お互いを支え合い、全ての喜怒哀楽を共にする、ということ だ。これらのことは「絆」という一文字に置き換えられる。「絆」とは「断ち 切ることのできない繋がり」と辞書に書いてある。神様との、家族との、断 つことのない繋がり、その「絆」が、いかに大切か、マリアとヨセフは我々 に教えてくれている。また、ここ日本で起きた東日本大震災では「絆」と いうものを、我々に再確認させてくれた。あの出来事は、神様や家族の みならず、友達や先生といった隣人との「絆」をも再確認できた。

人との絆が、再確認された今年、やってくるクリスマスを、我々はどう 迎えるのか。僕は、マリアとヨセフを通して学んだことを活かしたい。つ まり、クリスマスを家族と共に過ごし、家族との絆を確認し、またクリスマ スを祝うことで、神様との絆を確認したい。そして、中等部の「クリスマ ス礼拝」では、友達や先生との絆を確認したい。さて、皆さんは、誰との 絆を確認するクリスマスにしますか。



いろいろなことがあった2011年。各部の方から、クリスマスに寄せる思いを頂きました。



青木 契 高等部3年

「クリスマスってなんなのだろ う、なんでお祝いするのだろう」 幼いころ、こういう疑問を持って いた人は少なくないだろうと思い

ます。しかし、僕は違いました。幼いころ、言ってしまえばお母さんのお 腹の中にいるときから教会に行っている自分にとってはクリスマスとは 「イエス様の誕生日」というイメージが強かったです。でも実際は幼い ころは「イエス様がお生まれになった」ということを喜ぶより、正直「サ ンタさんからのプレゼント」がとても嬉しく楽しみでした。そういう人も多 いのではないでしょうか。

しかし、そんな中でも毎年毎年アドヴェントになると教会に一週ごと にろうそくの火がともったり、また、イブの夜にはキャンドル礼拝がおこ なわれたりと、とても大事な時として祝われていることを見てきました。

そんな環境に囲まれてきたからこそ、だんだんとクリスマスというの は「プレゼント」だけではなく「イエス様の誕生日を感謝する日」という イメージが強く濃く自分の心の内に起きてきました。

「なんでそこまで誕生日を感謝するのか」と疑問に思う人がいると 思います。

僕がなぜ感謝をするのかというと、確かにイエス様は十字架につ いて私たちの罪のために死んでくださいました。しかし、まずは何より 「イエス様が生まれる」ということがなかったなら、その十字架もなか ったわけで、自分たちの罪が赦されることもなかったからです。また、 自分に置き換えて考えると神様が人間になるということは自分たちが 蟻などの虫とかになることよりももっともっと大変なことであったのに、 人間に対する愛のために、人間になられ、地上に来られたイエス様 に本当に感謝を感じるからです。

また、僕は小4の時に神様の救いを信じて洗礼を受けたのです が、それもクリスマスであったということもあり少し特別な季節になりま した。そして、プレゼントが楽しみという気持ちはありますが、今ではす っかりクリスマスを「イエス様の誕生を感謝する日」と同時に「永遠の 命というプレゼントをもらった日」として感じています。

みなさんも自分のためにイエス様が地上に来られた「クリスマス」と いう日に感謝を持って過ごしてみたらどうでしょうか。



千葉 成美 女子短期大学 子ども学科1年

みなさん、毎年クリスマスをど のように過ごしていますか。好きな 人と過ごす人、友達とパーティー をして過ごす人、それぞれが特 別な日として過ごしているでしょう。しかし、それは何を祝っている

のでしょうか。 私は毎年教会でクリスマスを過ごしています。"クリスマス"とは イエス・キリストの誕生日のこと。イエス様が生まれてくれたから、今

私たちは罪が赦されて神様と共に歩むことができるのです。 クリスマスが近づいてくると教会は様々な装飾がされ、ツリーが 飾られ、賑やかになります。そして、クリスマスイブにはキャンドルサ ービス、日曜日にはクリスマス礼拝や祝会が行われます。キャンドル サービスとは24日の夜にあり、会堂を暗くし、一人一人がろうそくを

持って礼拝を捧げることです。

そのキャンドルサービスの後、近所の教会関係の家をまわって 賛美をするキャロリングが行われます。小さい頃はキャロリング中、 睡魔に耐えきれずに帰る頃には車で爆睡していました。しかし成 長した今、キャロリングには大切な意味があることに気付きました。 クリスマスとは、世界中の人皆が幸せに暮らすことを願う日。イエ ス・キリストの誕生を皆で祝福する日。キャロリングには教会に来ら れない人も一緒に賛美して一緒に祝福しましょうという意味がある のです。

昨年のキャンドルサービスの日は大雪でとても寒い日でした。そ の日も毎年同様キャロリングへと行きました。家の前で賛美をして いる時も雪が服に積もる程降っていたけれど、その中でもどの家 の人も外まで出て来て賛美を聴いて心から喜んでくれました。ある 人は、キャロリングに来て貰うことが毎年の楽しみと言っていまし た。一緒にイエス様の誕生を祝えることはそれくらい大きな喜びな のだと改めて感じました。

みなさん、今年のクリスマスはどのように過ごしますか。本当のク リスマスを過ごしてみませんか。

少しでも多くの人が教会へ足を運ぶことができるようにお祈りし ています。



小方 信幸 大学院 国際マネジメント研究科

昨年のクリスマス、私は56 歳で漸く洗礼を受けました。 曾祖父は、米国インディアナ 州のデポー大学卒業後にメ

ソジスト教会から日本に派遣された宣教師であり、青山学院第3代 院長の小方仙之助です。明治時代からのクリスチャンファミリーに生 まれながら、受洗まで随分と遠回りをしたお話をします。

このような私を信仰に導いてくれた最も身近な人は私の母です。 母は、戦前に横浜の捜真女学校で聖書の授業に感動して信仰を 持ちました。そして、終戦直後、食料事情の悪さから体の不調と痛み に苦しむ母の目の前に、ほんの一瞬イエス様の姿が現れました。そ の場所は、戦災で焼失した捜真女学校が教室を借りた、関東学院 の礼拝堂の焼け跡でした。その時に、母は全ての痛みと苦しみが癒 され、迷わず洗礼を受ける決意をしました。

母の信仰を考えると自分にはクリスチャンになる資格はないと思 い、仕事の忙しさを言い訳に教会を避けていました。しかし、神様は 私を見放さず信仰の道にお導きくださいました。私が2007年に国際 マネジメント研究科に入学したことも大きな出来事でした。初めて青 山学院の並木道を歩いたとき、突然雑踏が静寂と変わり、声なき声 が聞こえるという霊的な体験をしました。大学院では宗教主任の東 方先生、西谷先生との出会いがあり、キリスト教倫理に基づく企業の 社会的責任(CSR)を修士課程での研究テーマとしました。

ところで、捜真女学校で母を信仰に導いてくださったのは山北多 喜彦牧師でした。山北宣久院長のお父様です。神様のお導きによ り、数年前に東京に転居した両親は、山北宣久先生の牧する聖ヶ丘 教会に転会しました。2年前、二十歳目前の甥が天国に召されるとい う、深い悲しみを経験しました。しかし、山北宣久先生の司式のもと 行われた甥の葬儀の中で、曾祖父が生前から自らの葬儀の際に希 望した讃美歌488番が流れたとき、イエス様の腕に抱かれて甥が天 国へと昇る姿が分かりました。神様の大きな愛を知った瞬間でした。

昨年のクリスマス礼拝での受洗で私は変わりました。今、私は還 暦を前に博士論文に挑戦しています。ヨシュア記14章6-12節のカレ ブのように、神様のお導きを信じ、勇気をもって進みます。

CENTER NEWS 宗教センターだより 高等部より クリスマス合同コンサート 12/17 15:00開演(14:30開場 12/17 土 ガウチャー記念礼拝堂 オルガン演奏、ハンドベル演奏、 聖歌隊の合唱によるメサイア等 クリスマス礼拝と祝会 12/19月 10:00~12:00 青山学院講堂 ●クリスマス礼拝 メッセージ 深町 正信(青山学院名誉院長) 讃美と証 岩淵 まこと(ゴスペルシンガー) (宗教主任 相良 昌彦) 女子短大より クリスマス礼拝 12/7水 13:00~14:30 青山学院講堂 メッセージ 石橋 秀雄(日本キリスト教団議長、 日本キリスト教団越谷教会牧師) 聖歌隊・ハンドベル クリスマス・コンサート (宗教活動委員 秋富 創) 大学より ランチタイム・コンサート 11/24 12:35~13:05 ウェスレー・チャペル 演奏 作井 清雅子(大学オルガニスト クリスマス礼拝 説教 藤掛 順一(横浜指路教会牧師) 12/15 17:50~ カェスレー・チャペル (インマヌエル高津キリスト教会牧師) オルガニスト養成講座 受講生発表会 12/19月 18:15~ 2012年2/3金 17:30~ ガウチャー記念礼拝堂 講座受講の学生によるパイプオルガン発表会 オーストラリア・ クリスチャンファミリー・ ホームステイ・プログラム クリスチャン家庭に滞在し、現地校で英 語研修、日曜日には礼拝出席とキリスト教 や異文化の体験をします。また、地元の小 (宗教センター事務室 平野 修一) 本部より クリスマス・ツリー点火祭 ~降誕を待ち望む礼拝 11/25 相模原キャンパス16:30~ 11/25金 青山キャンパス 17:20~ 全学院の礼拝として行います。 Art クリスマス Aoyama 11/22/12/16金 短大 どなたでもご自由においでください。 教職員新年礼拝

2012年1/7± 12:00~ ガウチャー記念礼拝堂

(宗教センター事務室 平野修一)

CHRISTIAN ACTIVITIES